

集中管理装置

辻井 恵一 (つじい けいいち) 株式会社 AIHO 研究開発部 開発企画課 課長

吉岡 克己 (よしおか かつみ) 株式会社 コメットカトウ 研究開発部第1チーム チーフ

要約 現在、一般社団法人日本エレクトロヒートセンター（以下、JEHC）が立ち上げた「業務用厨房機器 IoT 構築ワーキンググループ」（以下、WG）では、多種多様な業務用厨房機器の通信データを同 JEHC が運営する共通 IoT プラットフォームに繋げて今後の食品業界において IT 活用する構想がある。その中で、厨房機器と共通 IoT プラットフォームを安全に繋ぐ重要な役割を担う装置として「集中管理装置」がある。本稿ではこの「集中管理装置」の仕組みと役割についてご紹介する。

1. はじめに

本稿でご紹介する集中管理装置とは、JEHC が策定した「業務用厨房機器標準通信仕様書」¹⁾ に則った通信機能を搭載した、厨房機器のリアルタイムデータを厨房施設内で一括管理し、クラウド上に配置されたプラットフォームに送信するための通信設備を指す。これはハードウェア・ソフトウェアの形式を問わず、開発各社の競争領域として位置づける。

2. 集中管理装置の目的と役割

厨房にはさまざまな厨房機器メーカーの多種多様な

機器が存在する。仮にそれらの機器全てに温度などのデータを出力できる通信機能があったとしても、そのデータをそれぞれ個別にインターネット上のプラットフォームに送信することは効率が悪い。またメーカーごと、更には機器ごとに送信手順がまちまちなことが考えられるため、結果的に厨房施設内で一元的にデータを管理することは難しい。その問題を解決するためには、厨房施設内に設置されているそれぞれの厨房機器のデータを共通の通信手順（業務用厨房機器標準通信）で一旦集約してからプラットフォームに一括して送信することが効率的であり、その役割を集中管理装置が担う（図1）。

集中管理装置を厨房機器とプラットフォームの中間に置くことで、厨房機器側のネットワーク（イントラネット）とプラットフォーム側のネットワーク（インターネット）の切り分けができ、情報セキュリティ上

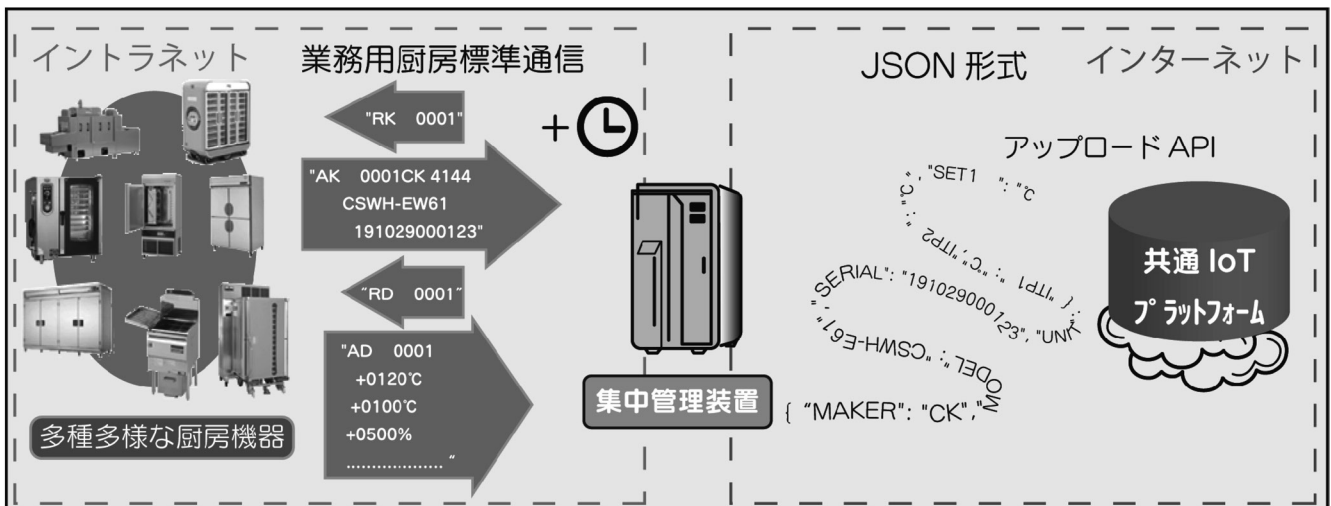


図1 集中管理装置を中継したプラットフォームへのデータ送信